

# KUMAMOTO YMCA NEWS

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

## YMCA August 2014 vol.507

# 8



YMCA学院建築科と日本語科学生がそめん流しで交流

- C O N T E N T S**
- ① 幼児教育に求められているもの
  - ② フィランソロピー協会交流デイキャンプ/熊本YMCA企業交流会/YMCA学院医療事務管理学科・ワールドキャンパス交流
  - ③ 熊日学童五輪体操競技/水上フェスティバル Youth Act Vol.5 中央YMCA体操リーダー坂本大樹さん REPORT 阿蘇YMCAワークキャンプ/楽しく子育て講座
  - ④ タラント No.5 「ささえ合うコミュニティ」 Topics 中央YMCA/阿蘇YMCA/リフレスおおむた

### わたしと聖句



ローマの信徒への手紙 8章 28節  
神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということをし、わたしたちは知っています。

### 万事を益としてくださる神様

私は、両親がクリスチャンの家庭に育ち、幼い頃より教会に連れて行かれていました。それが嫌で、中学生になると、ほとんど教会に行かなくなりま

した。  
高校一年生のある日、1995年1月17日に、阪神・淡路大震災が起こり、神戸の私の家は全壊しました。どうして自分たちだけがこんな不幸な目に遭うのか、と神様を呪い、二度と教会に行かない決心をしました。  
震災から十カ月たったある日、土曜日の夜から一晩中友だちと遊んでいたら私は、そのまま家に帰るのがつまらなく、不思議と教会に行ってみよう、と思いました。そこで昔から通っていた教会に行き、日曜学校に出席しました。そこで聞いたのが冒頭のみことばです。  
神様は、信じる者の万事を益と変えてくださるお方だ、ということがすつと胸に入ってきて、「この神様を信じたい」「私も辛かった地震のことを益と変えてもらいたい」と思い、信仰を受け入れました。  
地震がなかった方が良いのはもちろんです。しかし、あの地震がなければ、私は信仰を持つことがなかったかもしれないと思う時、神様はどんなことであつても益と変えてくださるお方だと実感するのです。  
日本アッセンブリーズオブ・ゴッド教団  
シャロンキリスト教会  
上田 努

## 子どもと共に、 育ち合うということ 幼児教育に求められているもの

熊本YMCAでは、YMCA水前寺幼稚園、阿蘇の尾ヶ石保育園、永草保育園、赤水保育園、黒川保育園、みなみYMCAぶどうの木幼稚園のほか、体育英語幼児園など、多くの子どもたちの保育に取り組み、専門学校では保育者の育成を行っています。近年、幼児の育ちの中で、基本的な生活習慣や態度、規範意識、耐性が十分に育っていないため、他者との関わりが苦手である、運動能力が低下しているといった課題が指摘されています。また、人間関係の希薄化、効率性を重視する社会状況などが複合的に絡み合い、子どもたちの成長にも大きく影響を及ぼしています。このような中、幼稚園や保育園での生活や遊びを通し、子どもたちは何を経験し、学び、身に付けていくべきでしょうか。また、そのために私たちには何が求められているのでしょうか。今回は、九州音楽学園理事長でみなみYMCA運営委員の井上新さん、YMCA尾ヶ石保育園園長の橋本朋子さん、YMCA学院児童福祉教育科学科長の加藤泰文さんにお話を伺いました。



写真右から  
井上 新さん/学校法人九州音楽学園理事長・園長  
みなみYMCA運営委員  
橋本朋子さん/社会福祉法人熊本YMCA福祉会理事  
YMCA尾ヶ石保育園園長  
加藤泰文さん/YMCA学院児童福祉教育科学科長

### 子どもたちを取り巻く環境

**加藤** 井上さんは九州音楽幼稚園の園長として、橋本さんは尾ヶ石保育園の園長として、子どもたちに接していらっしゃる。今の子どもたちを取り巻く環境について、どのようにお考えでしょうか。



**井上** 社会環境は年々変化しています。私が幼稚園と関わりを始めた32年前と今では全く違っています。しかし、子どもたちの本質は変わっていません。ただ、私が子どもだった頃は自然が身近にありましたが、今の子どもは自然の中で遊ぶ経験ができていくようですね。自然の中で遊ぶことで、自然に

する感性を身に付けさせたいと考えていますが、現状では保護者に対し、自然に触れる機会をつくってほしいと伝えるだけに留まっています。

**橋本** 阿蘇には自然が多く残っていますが、帰宅後は、テレビやゲームをしている園児も多いようです。自然の中で遊ばなくなった原因のひとつにデジタル化もあるように思います。また、親の就労についても環境は大きく変わってきていると感じます。働きながらの子育ては本当に大変なことです。環境の変化に左右されることなく、保護者と保育園で子どもを最優先に考えていかなければと思います。

**井上** 今の保護者の方たちは、子どもの頃に自然の中で遊んでいない世代なのかもしれません。だから保護者も遊び方や楽しみ方を知らない場合が多い。私は、今でも小川を見ると子どもが湧き上がるように捕ったりしてワクワクとした気持ちで湧き上がります。この気持ちは経験があるからこそ湧き上がるもの。子どもたちには原体験として経験してもらいたいと思っています。

### 子どもたちの育つ力への関わり

**加藤** 私はYMCA学院という専門学校の中で保育者の養成に携わっています。その中で感じるのは、今の若い人は同級生と遊ぶことが多く、タテのつながりが苦手な傾向にあるのではないかと感じます。年長者から教えてもらった多様な価値観などを下の世代に伝えたいという気持ちが希薄だという印象を受けます。



**橋本** 体力不足も課題の一つです。送迎は園バスか保護者の車で、自ら歩く機会が少なくなっています。少しでも体力向上につながるように、歩く、走る、遊具にぶら下がる等の遊びを日々の保育に取り入れています。保育士がねらいや意図をきちんと捉え、発達に応じた遊びを展開させ楽しんで体力

象も受けれます。  
**橋本** 尾ヶ石保育園では、朝は一つの部屋に集まり、各クラスの部屋に分かれます。その時、保育士が部屋へ連れて行くことすると「イヤ」という子どもも、年上の園児が手を引くと黙って自分の部屋に向います。上の子は自然と下の子の面倒を見るようになります。年齢差のある集団はとても大切だと思っています。小さい子どもでも好きなお兄ちゃん、お姉ちゃんがいるように、日頃の関わりの中で自分のことを気にかけてくれる年長児のことはよく分かるようですね。  
**井上** 集団の中で育つ力は、遊びの中で得られると思います。例えば新しいサッカーボールを与えた時、小さな子が遊びたがると年長者はそのボールで遊ぶことを我慢します。優しい気持ちが生まれてくるようですね。集団での遊びの重要性だと思っています。私たちの課題は、幼児期をどのように育てていくか、人間関係をどうつくっていくかです。今の子どもたちは、激しいケンカをしませんし、互いに欲求を戦わせることもありません。それらを遊びの中で培うことで、「生きる力」につながっていくと思います。

づくりができるとういんですね。

**井上** 親とのスキンシップの有無も気になります。預かり保育時に、私は子どもと体を使って遊びます。するとおもしろがって何度も遊ばれます。「家でお父さんがしてくれないの?」と尋ねると、ないと言う返事。お父さん世代がそのような遊びを体験していないようです。一緒にテレビを見ることなどが「遊び」となっており、「遊び」の質が変わってきているようです。

**橋本** ショッピングが親子で行う休日の「遊び」という家庭も多いようです。乳児クラスでは保育参観時や運動会の時に、親子でのふれあい遊びを取り入れたプログラムを行います。肌が触れ合うということは情緒の面でも子どもに安心感を与えることができます。家庭でも、子どもを膝に乗せて話をすることは大切な遊びです。せめて保育園に通う年頃の間は、「もう年長さんだから、年中さんだから」とは言わずに、手をつないだり、時には抱っこをしたりしてほしいと思います。

### 保育者に求められるもの



**加藤** これから保育者を目指す若者に身に付けて欲しいことはありますか。

**橋本** いろいろな思いはありますが、その場その場で様々な気づきを持つことができる保育者になってほしいです。そして気づいた時はすぐに動くことが大切です。たとえば花瓶に挿した花が枯れかかっていたら水を替える、汚れていたら掃除をする、などごくごく単純なことです。先輩保育士がどの

ようなことに気づき、何を実行しているかをよく見て、「私が見ます」と行動に移してほしいです。その気づきも子どもたちを観る目につながると思いますが、先輩保育士も新任の先生方を温かい目で見守っています。

**井上** 子どもと共感する気持ちを持つことですね。子どもが困っていることを察知し、見つける力も必要でしょう。基本的には人に対する優しさ、温かみを備えた人間性です。聖書にも、「自分がされてうれしいことを人にしなさい」と書かれています。人が喜ぶことをすることが一番です。そして仕事に対する熱心さを持つていること。子どもとの遊びを、自分も心から楽しめる保育者が理想ではないでしょうか。

**加藤** 保育者の育成において、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という聖書の言葉を大切にしています。また、自ら考え、行動し、責任を取ることが出来る保育者になってほしいと願っています。子どもに対して謙虚に、一人の人間として接することも大切ですね。学生たちには、子どもを中心に考えることができる保育者になってもらいたいと考え、日々関わっています。

**井上** これからの日本を背負う子どもを育てる人材の育成が重要ですね。

**加藤** 学生たちには保育者として、子どもをどのように導いていきたいかなどの使命感を確立させる指導を行いたいと思います。

**橋本** 自らの考えをきちんと持ち、子どもとしっかり関わる保育ができればよいですね。  
**加藤** 保育の現場と保育者を養成する側が情報を共有しながら、子どもたちと共に育ち合っていけたらよいと思います。本日はありがとうございました。

## 自然の中でふれあい、みんな笑顔に 第12回交流デイキャンプ

6月に実施されたチャリティボウリング大会の益金をもとに、児童養護施設の子どもたちを招いて行う「交流デイキャンプ」。YMCAフィランソピー協会が毎年開催しており、今年は7月12日(土)に阿蘇YMCAで実施されました。熊本市の「藤崎台童園」の子どもたち21名と先生25名を招待し、フィランソピー協



会会員企業からは6企業・団体26名が参加。心地よい風が吹く中、レクリエーションゲームやピザ作り、バーベキュー、クラフトなどを体験しました。

亀井通産の松元晋吾さんは「貴重な体験だと思い、高校3年生の娘も連れて来ました。子どもたちとの交流の中で、何かを感じ取ってほしいですね」。3年連続で参加した熊本銀行の田中薫さんは「仕事では触れ合う機会がない子どもたちと交流できて、とっても新鮮です。屈託のない笑顔で接してくれる子どもたちを見ると嬉しくなります」と感想を語りました。

## 地域との協働を目指して 熊本YMCA企業交流会を開催

6月27日(金)、中央YMCAにて「熊本YMCA企業交流会」が行われました。国際協力・支援活動や青少年育成の推進のため、YMCAと企業・団体の協力関係を強めていくことを目的として開催。43の企業・団体の関係者とYMCA職員ら約70名が参加しました。

開会礼拝の後、熊本YMCA会長の菅正康さんが「海外はもちろん、日本にも経済的に厳しい生活をしている子どもたちがいます。すべての子どもたちがYMCAのプログラムに参加する機会を与えられ、その経験を通して、健やかに成長することを願っています」と挨拶。YMCAが取り組む諸活動やヤストリー(熊本YMCAプログラム参加者の体験談紹介のほか、名刺交換会、参加企業の自己紹介など、活発な異業種交流が行われました。最後に、参加者一人ひとりが全員と握手をして閉会。地域の企業・団体との協働の輪を広げる一歩となりました。

## YMCA学院生が 世界各国の若者と交流

熊本YMCAは、NPO法人「ワールドキャンパスインターナショナル」によるスタディーツアーに、会場の提供、YMCA学院生との交流プログラムなどを通して協力しています。スタディーツアーは年に1回開催。世界各国から集まった参加者たちが、日本の都市を回り、各地域の住民と交流しながら文化に触れています。

7月7日(月)、オランダやセルビアなどからツアーに加わった留学生22名とYMCA学院医療事務管理学科の学生23名の交流プログラムが中央YMCAで開催されました。自己紹介を兼ねたレクリエーションの後、七夕にちなんで全員で短冊に願い事を書いて笹に吊るしました。日本語で書きたいという留学生に、学生が手本を書く姿も。また、熊本の郷土菓子・いきなり団子作り体験も行い、生地から手作りして蒸し上げました。

同学科2年の塘添琴美さんは「いきなり団子作りは私も初体験。ジェスチャーを入れながら留学生と協力して作りました。完成して良かった」。時枝真子さんからは「伝えたいことがあるのに言葉が出てこないもどかしさ。もつと英語を勉強します」との感想が聞かれました。交流を通して新たな学びの機会が得られたようです。





## 水上フェスティバル

7月6日(日) 会場/みなみYMCAプール

YMCAの水泳教室在籍生総勢100名がみなみYMCAに集い、水上フェスティバルが開催されました。子どもたちは緊張感に包まれながらも、保護者やリーダーたちの温かい声援に励まされ、日頃の練習の成果を披露しました。



## 熊日学童五輪体操競技

7月6日(日) 会場/熊本県立総合体育館

第40回熊日学童五輪が開幕し、総合開会式に続いて、体操競技が行われました。YMCAからは、男子7名、女子13名が出場。男子団体は3年ぶり11度目、女子団体は3年連続7度目の優勝という見事な成績を収めました。

今大会は、九州大会の予選会も兼ねており、男子2名、女子5名が8月15日(金)、16日(土)に大分県で行われる九州大会への出場権を獲得しました。



子どもたちとの出会いは、私にとっても貴重な体験です。一生懸命に取り組む姿勢を見て欲しいと思います。卒業した子どもたちとは今でも関わりがあり、これからも共に成長していきたいと思っています。

体操競技は自分と戦うスポーツです。技に対する恐怖感の克服、美意識へのこだわりなど、心のバランスが演技に現われます。心を教えることは、技を教えることより大変ですが、未来ある子どもたちに接する機会を得られたことに感謝しています。

熊日学童五輪の体操競技では、床、円馬、跳馬、鉄棒の4種目を4名で競う団体戦で優勝。試合に慣れていない子どもがほとんどでしたが、緊張しながらも一人ひとりが自分の力を発揮することができました。

## YOUTH ACT

Vol.05 YMCAで活躍しているユース紹介

### ●熊日学童五輪体操競技に引率



坂本大樹さん 坂本整体院/中央YMCA体操チームリーダー

### 未来ある子どもたちの心を育む指導を



小さな子どもを持つ保護者を対象に、「楽しく子育て講座」を開催しました。YMCA水前寺幼稚園園長の井上和美さんが「幼児期の運動遊び」をテーマに講演。参加した21名に対し、子どもたちが普段の生活の中で、どのように年齢に応じた運動能力を身につけていくのか、具体例を交えながら話されました。また、講演後の懇談では、縄跳びの練習方法や身体の使い方など、活発な質疑応答が交わされました。楽しみながら子育てのヒントを得る機会となったようです。

むさしYMCA 丸内陽子



安全で楽しいキャンプを願って阿蘇YMCAでワークキャンプ  
 ■日時/6月22日(日)9時半~12時半  
 ■場所/阿蘇YMCA  
 夏のキャンプシーズンを前に、ワークキャンプを実施し、阿蘇ワイズメンズクラブメンバーや職員ら17名が参加しました。キャンプ場に訪れる子どもたちが、安全に楽しく過ごすことを願いながら、駐車場からメイソンホール前の上がる坂やキャビンサイトにある砂利敷きの階段のリニューアル、枝の伐採、キャビンの清掃などを行いました。

阿蘇YMCA 山田真二

タラント No.5

総主事 岡 成也

ささえ合うコミュニティ

子どもの相対的貧困率が16.3%(2012年厚生労働省調べ)と過去最悪を更新しているとの報道がありました。この子どもの相対的貧困率とは、平均的な所得の半分を下回る世帯の18歳未満の子どもの割合を指していますが、なんと6人に1人がこの貧困状態なのです。こうした世帯では進学を断念するケースもあり、もはや日本の子どもたちは自分自身の努力だけでは人生を切り開いていくことが難しいという現実と直面しています。

先日、高校の進路指導の先生とお話した際にも、最近、「夢を持って、その夢に向かって努力しなさい」という言葉かけをためらうことがあるとおっしゃっていました。進学時の学費について、それぞれの家庭の経済的な課題の大きさに、難しさを感じているそうです。大学や専門学校といった高等教育機関を経済的理由によって退学していく割合も増加しています。

経済的に困難な状態にある子どもたちが、YMCAのスポーツ、キャンプ、ボランティア、国際活動、専門学校での学び等の中で、心と知性と身体のバランスのとれた全人的成長をすることで、貧困の連鎖を断ち切るような働きへとつながることを願っています。

先般、熊本YMCAに関わる企業の方々にお集まりいただき、企業交流会を開催いたしました。YMCAの働きを支えていただく個人・団体に、より広くYMCAを理解していただき、子どもたちを共に支えるサポーターをどれだけ多くつくることできるかが問われています。それこそが、熊本YMCAの使命にある“共に生きる社会”の創出です。先人が築いてきた変わらぬ使命をしっかりと意識して歩み続けていきたいと思ひます。

熊本YMCA第22回会員スポーツ大会

スポーツを通して親睦を図り交流を深める、会員スポーツ大会を開催します。競技はボウリングで、年齢や男女に関係なくご参加いただけます。ゲーム終了後には、お楽しみ抽選会も行われます。オリジナルのプラカードやコスチュームを準備してご参加ください。

日時:2014年9月23日(祝・火)9:00~12:00 8:30受付開始

会場:マスターズボウル熊本(熊本交通センター内)

主管:メンバーシップ委員会

運営:会員スポーツ大会実行委員会

内容:各YMCA・ワイズメンズクラブ・クラス等対抗のボウリング大会

ルール:・1チーム4人編成により2ゲームを行う

- ・男女、年齢に応じたハンディを設定
・上位以外に飛び賞や特別賞を設ける
・ストライク・スペア1回につき100円を目安に募金(東日本大震災復興支援・タイ里親運動支援)

参加費:1チーム4,000円(高校生以下は1人につき200円を割引)

※シューズレンタル代300円は別途個人負担

申込方法:所定の申込書に必要事項を記入のうえ、9月12日(金)までに参加費を添えて各YMCAへ提出してください。



お問合せ/熊本YMCA ICR TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877 E-mail icr@kumamoto-ymca.org

TOPICS 地域YMCAにまつわる人・モノ・場所などを順番にご紹介します。

地域のミニバレークラブ 中央



スポーツを通して地域のコミュニティを強めようと中央YMCA運営委員会の提案により2011年度から始まった「チャリティミニバレー大会」。今年は近隣地区のミニバレークラブから、11チームが参加しました。初めに昨年度の募金活動の報告と大会趣旨の説明が行われた後、各コートにわかれて試合開始。白熱した好勝負が繰り広げられました。

この大会の参加費は東日本大震災復興支援に充てられます。来年もぜひ継続し地域の皆さんと一緒に爽やかな汗を流したいと思ひます。中央YMCA 大久保和生

馬がうまった 阿蘇



阿蘇YMCAでは、先日、ワークキャンプを実施しました。(3面に関連記事)

駐車場からメインホールに上がる階段を作っている最中、土の中から、コンクリートの塊を発見。なんと、動物の形をしています。これは、左を頭にすれば馬?右を頭にすればサイ?不思議な形です。しかも、その存在を歴代の館長、長くボランティアで関わっている方もご存じありません。どなたか、情報をお持ちでしたら、阿蘇YMCAまでお寄せください。

皆さんの来館を不思議な馬と共にお待ちしております。阿蘇YMCA 山田真二

未来のリーダーたち リフレス



将来のキャンプリーダー育成を目指す「キャンパーズコネクション」が先日終了しました。2年目を迎えた今年は、近隣高校4校、27名でスタート。ユースリーダーの役割や責任などを学び、小学1年生から3年生までで構成される「がまだす隊」にリーダーとして参加。楽しさ、難しさを実際に体験してもらいました。子どもたちやその保護者、高校生にとって大変貴重な経験になったのではないのでしょうか。このようにリフレスおおむたでは、地域に根差した活動を年間を通して行っています。リフレスおおむた 東久文

Kumamoto YMCA Network

Table with 2 columns: Organization Name and Contact Information (Phone Number).



キャラクター・ディベロップメント 推進中

スポーツスクールのリーダーは、水泳や体操、サッカーなどを通して、子どもたちが、キャラクターディベロップメント(CD)の大切な価値を育み、行動できることを願っています。水泳クラスでは、子どもたちに渡す「がんばり記録表(水泳の上達の度合いを記録する用紙)」にシートを挟んで、CDについて、いつも確認してもらえるようにしています。スポーツが上手にできるだけでなく、心も一緒に成長して行きましょうね。(ながみね 緒方由美子)



【基本聖句】あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい(ペトロの手紙14章10節)

熊本YMCAの使命 共に生きる社会 ウェルネス活動 地球環境の保全 ボランティア活動 生涯学習の推進 平和な世界

ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp

メールマガジン登録 www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

